

# 保育園自己評価

2024年度

アポロンキッズうえまち保育園

## ◎ 保育の計画の編成と実施に関する評価

【評価】 A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する						
項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				開園初年度の振り返りを元に新たに全体的な計画を策定し、それに基づき保育を展開した。
	目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	○				
	目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	○				
	目標は、前年度の反省を生かしているか。	○				
	目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		○			
保育について	指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				新たな全体的な計画に基づいた指導計画を作成し、個別適切に援助と支援を行った。
	保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	○				
	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	○				
	素材・用具を適切に活用しているか。	○				
	評価結果を基に、保育の改善に努めているか。	○				
日時程	1日の流れ（デイリープログラム等）は現行で良いか。	○				集団生活での基本的な生活で、発達に応じた個別対応を重視した。
行事について	行事の種類や実施回数は適切か。	○				PDCA サイクルを用いて職員同士で共有する時間を重視し、行事等の終了後に評価と改善を必ず励行した。
	行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	○				
	乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。	○				
	計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	○				
	保護者の願いや意見を取り入れているか。	○				
食育について	食育の計画を作成し、よりよい食習慣や心身の健康の基礎を培うよう努めているか。	○				毎月必ず土付き野菜などを用いた食育を実施するなど、楽しい雰囲気の中で興味や関心を持って食事ができるように配慮した。
	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう食育について見直しや改善を図っているか。	○				

◎ 全体的計画に基づく保育・教育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

【評価】 A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する							
項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営・組織	分掌・体制	能率的、合理的な運営組織になっているか。	○				各々の役割を認識し、協力体制が得られるように伝達方法や発信の仕方を工夫していった。
		職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	○				
		職員の配置は適材・適所か。		○			
	運営	各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	○				各々の勤務時間や就労体制の違いを工夫し、会議の資料類を充実させ意思伝達を図った。
		職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	○				
		打合せ回数、時間、内容は適切か。	○				
	年齢別クラス運営	年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	○				開設初年度の振り返りを元に、全体的な計画に基づいた年齢別クラス目標を設定した。保育者各自の保育観を広げる目的でもチーム保育を重視し、異年齢保育の機会を大切にした。
		年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	○				
		年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。	○				
		同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	○				
		意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	○				
		評価、資料（諸記録）を集積しているか。	○				
	保健・安全指導	年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	○				健康観察による園児の体調管理に努めるとともに、感染症情報を掲示し、園医との連携を密に行った。交通安全は視覚教材にとどまらず、散歩時の実体験を重視した。
		避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	○				
		健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○				
乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。		○					
研究・研修	園内	研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。	○				自己評価による自己研鑽の推進に注力するとともに、保育目標の具現化を目指した。キャリアアップ・自己研鑽に係る研修に補助を行い、積極的な参加を促した。
		園内研修の計画・運営は適切か。		○			
		研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。	○				
		研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。	○				
	園外	各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	○				
		各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	○				

情報	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取扱っているか。	○			事務員を採用することで、適正かつ適切な業務遂行を行った。	
	公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	○				
	各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	○				
施設・設備	施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○			毎月の安全点検を行うとともに、完工後1年点検に基づく補修工事を行った。防犯カメラを新設し、不審者対策を強化した。	
	遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	○				
	不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	○				
	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	○				
出納経理	各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○			設置主体・運営主体との連携下で実施した。	
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。	○			連携施設8園からの情報を保護者と共有し、希望園児が他施設に向いて交流することができる配慮を行った。本園にも連携施設からの見学機会を設けることで、交流活動をより活性化させることを開始した。
		他施設等の乳児児童生徒と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。	○			
		指導者どうしが、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。		○		
		参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。	○			
		日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。		○		
	家庭・地域社会	参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日を設定しているか。		○		地域に根差した設置主体の人的資産を活用するとともに、地域の在宅サービスセンターのお年寄りとの交流を推進した。
		保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	○			
		乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	○			
		地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。		○		
	子育て支援	園庭、保育室等を開放しているか。		○		夏祭りや親子ヨガ、親子遠足などの諸行事を通じて、子育て支援を行った。設置主体や理事長が医療系である長所を生かし、子育てについての情報発信に努めた。
		地域に住む子どもどうし、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場を設定しているか。		○		
		「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。	○			
		職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	○			
		医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○			

情報発信	園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	○				Instagram をホームページに取り入れるなど積極的な情報発信を行った。
	行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に周知しているか。	○				
外部評価	第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。				○	第三者評価は開設3年目の次年度に導入予定である。
	地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	○				

### 今後取り組むべき課題

#### 1 保育者の質の向上

- ・単に行動するだけでなく、個々人の持つ保育に対する思いを共有できるように園内研修の内容を再度見直すと共に、その都度、職員間で思いを伝え合う場を設けていきたい。
- ・開設2年目を迎え、諸行事をはじめとする日々の保育についての改善等を行っているが、初年度の2年目への引継ぎがうまくできておらず、戸惑う事が多くあった。一人ひとりが責任感を持ち、次年度に引き継いでいく体制を確立させることで、より良い保育を考えていけるようにしたい。

#### 2 保育環境のさらなる充実

- ・毎日の自由あそびの中に、継続した遊びを取り入れ、いろいろな動きを経験できるようにする。
- ・導入した器具類を活用し、日々の自由あそびと体育あそびの内容を繋げていけるようにする。

#### 3. 業務のさらなる効率化

- ・保育の記録を電子化する事で、記録の共有や書類作成の時間短縮を行う。
- ・新たに導入した水遊び管理日誌や施設設備の安全点検チェックリスト等の帳票類について、さらに本園に合ったものに改善を加えるとともに、ICT システム導入の可能性を図る事での業務の効率化を検討する。

#### 4. 地域とのつながりの充実

高齢者福祉施設への訪問や地域行事への参画などにより、地域に根ざした保育を実施した。事業所内保育施設である本園の特色を生かしつつ、ボランティア受け入れや職業体験受け入れに向けた取り組みを進める。

2025年3月31日

園長 東田 充司